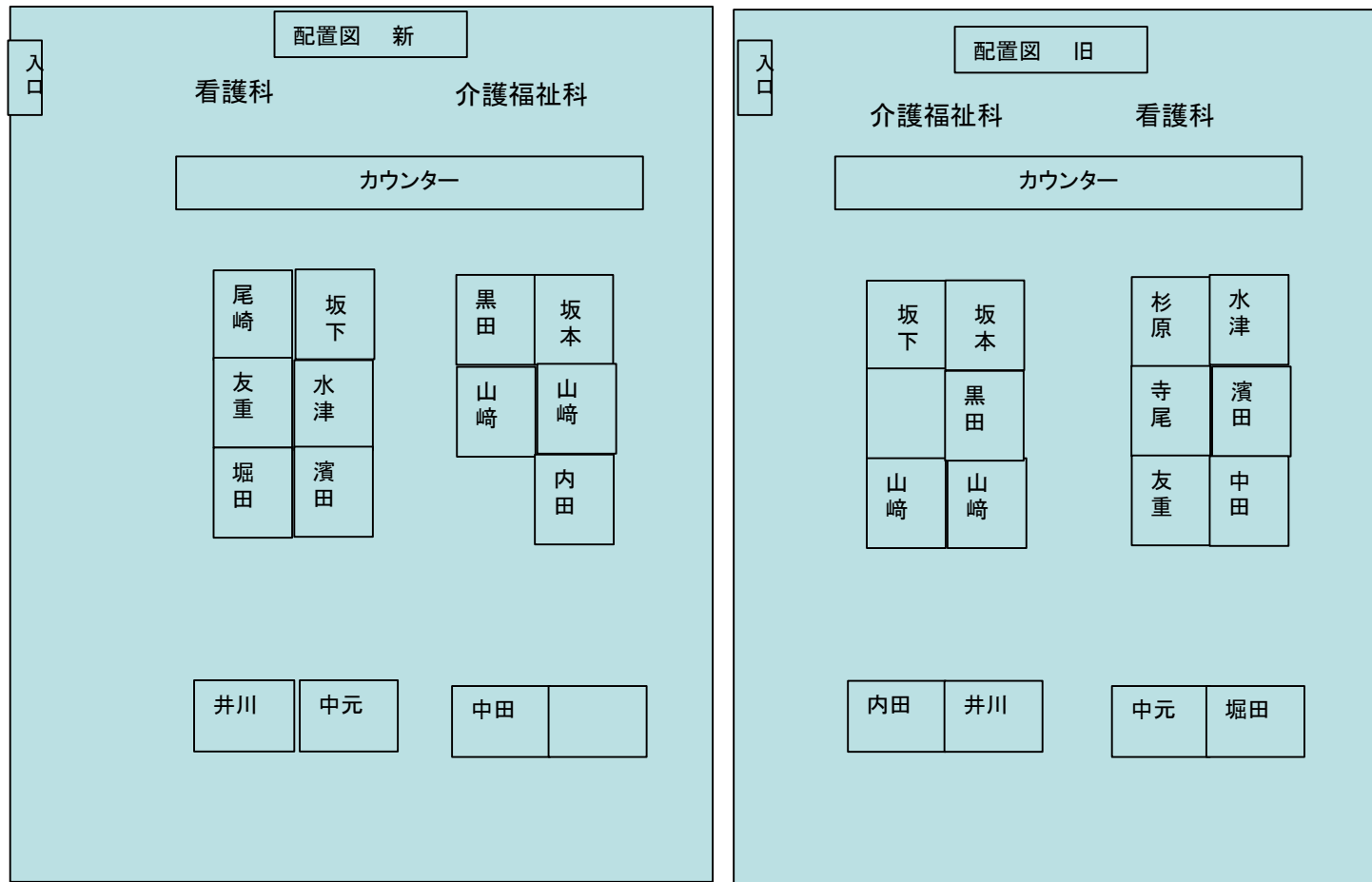


教務室の配置替えをしました



入学式挙行



平成31年度入学式
 新入生 介護福祉科 40名 看護科 17名
 入学してきます。
 そのうち留学生32名
 ベトナム 22名
 ネパール 2名
 中国 8名

皆様よろしくお願ひします。

六日市医療技術専門学校 ニュースレター2019. 4月号 vol.2No.5

目次
 開催予告1
 平成31年度1年生第1回合同学習
 開催予告2
 平成31年度2年生第1回合同学習
 介護福祉科看護科合同学習での学び
 教務室の配置換え
 入学式の挙行

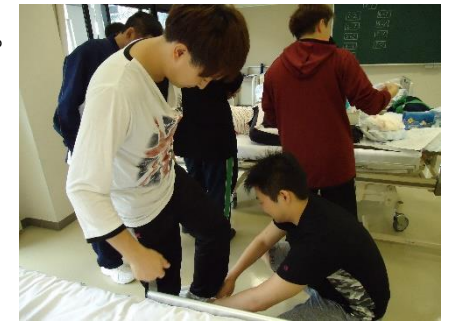
開催予告1

平成31年度 介護福祉科・看護科2年生合同学習
 「こころと心をつなぐ」
 ～第1回目:優しさを伝える技術 ユマニチュードを学ぶ～

平成30年度の合同学習では、専門職業人として求められる人間関係づくりや実習に役立つ学び方について体験を通して学生主体で捉えた取り組みとして、グループで考えながら学ぶ姿勢を培った。そこで、本年度の合同学習では、対象者の心に働きかける関わりに焦点をあて「こころと心をつなぐ」をテーマに、関わり方やその意味を考えていき、さらに深い学びにしていきたい。介護や看護で必要なのは会話で伝え合うことだけでなく、気持ちとの触れ合いの中で対象を理解することを目指したい。これまでの体験の中で“心通う瞬間”を感じたことがあると思う。それをきっかけに、第1回目の合同学習では、高齢者・認知症ケアの1つとされる優しさを伝える技術、ユマニチュードを学び、お互いの専門性を発揮し、事例をもとに自己の対象者と心と心をつなぐユマニチュードの技法を行動に組み込んでいく学習としていきたい。深めた認知症について、また、次の実習でどのような実践をしていきたいかなど学びを伝え合う場としたい。

1. 日時 平成31年4月18日(木) 1~4限目
2. 目的 認知症の人それぞれの価値観や個性を尊重した、介護福祉士・看護師としての自分自身の行動について考える。
3. 目標 1) 認知症の理解を深める。
2) 合同学習を通して、ユマニチュードの自己の考えを深化する。
4. 場所 六日市医療技術専門学校講堂
5. 方法 グループワーク

事前学習の共有
 シミュレーション準備
 認知症について理解する
 ケアの実施(動画撮影)
 動画を用いた振り返りとユマニチュードの活用
 発表



開催予告2

平成31年度第1回1年次介護福祉科看護科合同学習
 テーマ「相手に自分を知ってもらおう！」

今年度、入学した介護福祉科40名、看護科17名は、様々な地域、国から介護・看護の専門職を目指して、六日市にきました。「お店はどこにあるの?」「ごみの出し方は?」など、初めての暮らしに不安や戸惑いもあると思います。そこで長年この地域で暮らしている方と話をすることで、地域の一員になりましょう。4月12日は地域の方をお招きして交流会(茶話会)を開催します。地域の人を学校にお招きする為にどんな準備したらよいかを話し合ひましょう。話し合いでは、しっかりと自分をアピールし学生同士絆をつくりましょう。交流会で自分をアピールして、六日市で暮らす自分を発見していきましょう。

1. 日時 平成31年4月11日 水曜日 3・4時限目
2. 目的 話ができる仲間をつくろう。
3. 目標 1) おもてなしするための準備ができる ※おもてなし:心を込めて、相手を受け入れること (自己紹介、地域の方に聞きたい事)
2) 自己の準備ができる
4. 参加学生数 介護福祉科 1年生 40名 六日市医療技術専門学校 講堂
看護科 1年生 17名



介護福祉科看護科最終合同学習実施報告

平成30年度2年生最後となりました介護福祉科看護科合同学習3回目(ニュースレター2019. 3月号Vol.2,No.3で予告)を開催し、学生の学びのレポートと学生アンケートの結果から学びの意味を抽出しました。担当者の報告書を掲載します。

平成30年度第3回(2年次)「カンファレンスの持ち方を考える」をテーマにした合同学習の学びの意味

平成31年3月31日
担当:水津弘子,

はじめに
今回の合同学習は、「カンファレンスの持ち方を考える」をテーマに取り組んだ。カンファレンスの持ち方を考え学ぶことが、これからの実習や実践の場において多職種で協働した援助に繋がっていく。そこで、カンファレンスの開催方法や自己の参加方法を学ぶこと、自ら多職種で活動する意味を実際の事例を取り上げ多職種の役割や立場を考えることを目的として行った。

終了後のアンケートやレポートを基に、今回のカンファレンスをテーマとした合同学習を教育的意義の視点から振り返り、実際の場でカンファレンス開催に向けて認識を高め、多職種との協働の一端となる専門性の発揮につながった学びが明らかになったのでここに報告する。

I. 目的

「カンファレンスの持ち方を考える」をテーマとした合同学習での学びの意味を明らかにする。

1.対象:介護福祉科2年次25期生16名

看護科2年次21期生11名

2.方法

1)学生が合同学習終了後に記載する実習の学びのレポートの記載内容を電子化し、KHcoderを用いて共起ネットワーク分析(ランダムウォーク)を実施。包括状態と考えられるまで最小出現数の数をあげて可視化した。

2)合同学習終了後に学生が記述したアンケートをグラフ化した。

3.テキストマイニングから抽出した学びと、アンケート結果を基に考察した。

II. 合同学習の方法

III. 倫理的配慮

個人が特定されないようにデータをランダムに並び替え一括してテキストデータとした。

IV. 結果

1.レポート結果

抽出後使用数は3244個であった。語の出現が多かったのは「カンファレンス」(4.2%)次に「対象」(1.9%)「職種」(1.6%)であった。その結果、図1のように3つの学びが抽出された。

1群:カンファレンスを運営する上での必要な視点を学んだ

「カンファレンスは対象者の理解だけでなく、【カンファレンスのテーマは何なのか】【それに沿って自分が提供すべき情報は何か】【他の参加者はどういった職種なのか、多職種に対して聴くべきことはなにか】など準備をしておく必要があると強く感じた」「カンファレンスのテーマを伝えることや全員が参加しやすい時間の設定、どのような情報が必要であるか、全員に理解してもらいやすくなるための配布資料の準備、利用者・家族の参加はどうするかなどを企画の段階から考え、短い時間で効果的なカンファレンスを行うことができるように事前の準備をしっかりとしてから臨むことが必要であることがわかった。」などであった。

2群:介護福祉士、看護師の役割を見通す学びであった。

「それぞれが目的を持ち、一人の利用者を支える不可欠な存在という意識をもち、同じ方向性を持つことが必要である」参加者の一人であるという自覚と責任感をもつことや、人の話を聴き理解する力、わかりやすく他者に伝える力、情報を多角的に捉える視点、発言力や想像力など、自分の能力を日々向上させる努力も必要であると築くことができた」であった。

3群:話し合いの場で相手への尊重の必要性を学んだ。

「それぞれが相手を尊重した態度で話し合いを行うことで良い雰囲気で行えた」「介護福祉士の役割を演じることで、対象者にとってとても大切な存在であると改めて理解するところができ、尊重していくことを再認識した」であった。

2.アンケート結果

「1.カンファレンス開催に必要な準備内容が理解できたか」は、理解できた介護福祉科26%、看護科81%、まあまあ理解できたは介護福祉科60%、看護科19%、あまり理解できなかったは介護福祉科13%であった。「2.カンファレンスにどのように参加すれば良いか」は、理解できた介護福祉科27%、看護科72%、まあまあ理解できたは介護福祉科67%、看護科27%、あまり理解できなかったは介護福祉科6%であった。

「3.合同学習を行う前後でカンファレンスのイメージに変化があったか」変化した介護福祉科47%、看護科73%、まあまあ変化した介護福祉科47%、看護科27%、あまり変化がなかった介護福祉科6%であった。

IV. 考察

テキストマイニングから抽出した学びと、アンケート結果を基に教育的意義をもたらした要因について検討する。

1)実習や実践の場でのカンファレンスに対する学生の認識が拡大した。

カンファレンス開催に具体的な準備を行い、効果的なカンファレンスを行うために何が必要であるか考え実施していくプロセスの中で、カンファレンスの枠を広げることができた。図1の1群よりカンファレンスの機能、カンファレンスに必要な構成要素はほぼ網羅していると言える。カンファレンスの機能として、①目標の設定②ニーズの分析③援助計画作成④情報共有⑤共有の援助目的と役割分担の確認^{白澤¹⁾}と白澤が挙げているものと一致している。カンファレンスの機能について学んだのは、グループワークでカンファレンスの意義や種類を話し合い、実習で体験した事例を基に模擬カンファレンスの企画・開催を組み込んだことに起因している。

アンケート結果より、介護福祉科の学生は全体的に低い結果であった。これは、看護科21期生は自己評価が高い傾向なことも反映しているが、介護福祉

科は自己への期待感があり、実際のカンファレンスの体験の少なさが一因と言える。つまり介護福祉科の学生は、卒後の就職後の行動への期待の大きさと考える。学生全体でみると、アンケート1からカンファレンス開催に必要な準備内容が理解できたとある。カンファレンスを実際に開催することで、カンファレンスの目的・機能を考え、運営のしかたも学んだ。介護福祉科の学生は、カンファレンスの経験がない学生が多く、実際にカンファレンスを体験することで、カンファレンスのイメージが付き、カンファレンスの認識が高まった。看護科は実習での体験はあるが、カンファレンスをより充実させる内容の強化となった。今後実践の場において活用でき、また経験する中でさらに発展させていけると考え、意義が高い学びであった。

2)カンファレンスの場を通し、介護観・看護観を再認識する学びであった。

カンファレンスに参加するにあたり、アサーションの活用を目標の中に組み込んだ。アンケート2から学生はカンファレンスへの参加する姿勢が理解できたと答えている。図1の2群3群に示される参加者の主体性の尊重、相手の尊厳を守り大切にしようとする姿勢の強化を図った。この学びにつながった要因は、①カンファレンスの開催における他の職種の役割をしたこと、②グループ間で学びを伝えあう体験であった。②の体験は、相手に伝わりやすい言葉や、学びを言語化する困難さの体験、聴く側も相手を否定しない姿勢の学びが起因する。広井は、専門職業人としてケアを行う大前提として人への関心・配慮・気づかひが必要であり、それなくしてはどのような科学的根拠を持ってきたとしても「ケア」として成り立たないといあるだろう2)。と述べている。カンファレンスをテーマとした合同学習は学生の姿勢を考える機会の提供となり、ケアを行う専門職としての姿勢となり倫理観に繋がっていった。

IV. 結論

1)介護福祉科の学生は、カンファレンスの開催や定着への認識が高まる学びとなった。看護科の学生は経験したカンファレンスの活用方法をより具現化した学習となった。

2)多職種との協働の一端となる相手を尊重する姿勢を取り込み、それぞれの専門性の発揮につながった。

おわりに

今年度2年次において3回の合同学習の開催することができた。企画から振り返りのまとめまでサポートして頂いた副学校長をはじめ教員の方々に感謝をいたします。

引用文献

1)篠田道子:チーム連携力を高めるカンファレンス進め方第2版、P7、日本看護協会出版会、2015。

2)茂野香おる:看護学概論、P28、医学書院、2018。

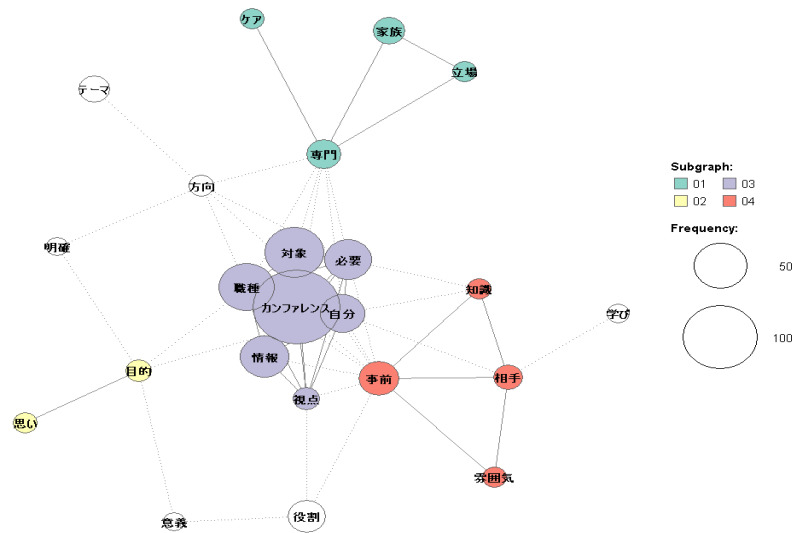


図1 合同学習における学生の学び

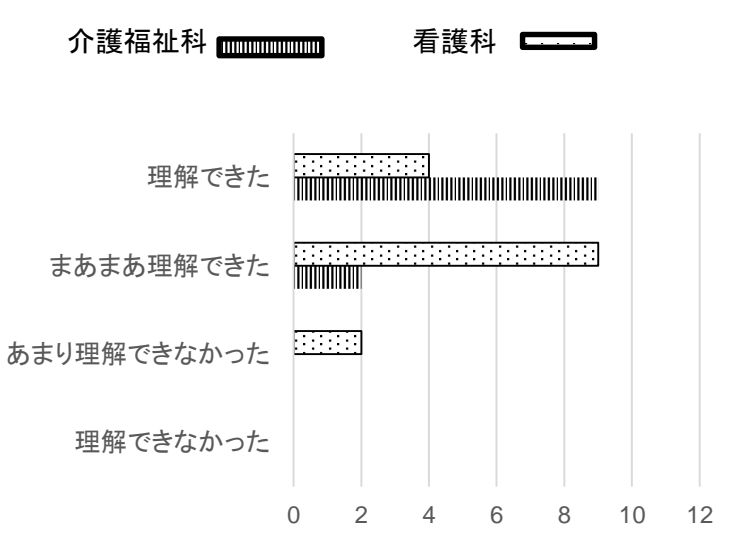


図2. カンファレンス開催に必要な準備内容が理解できた

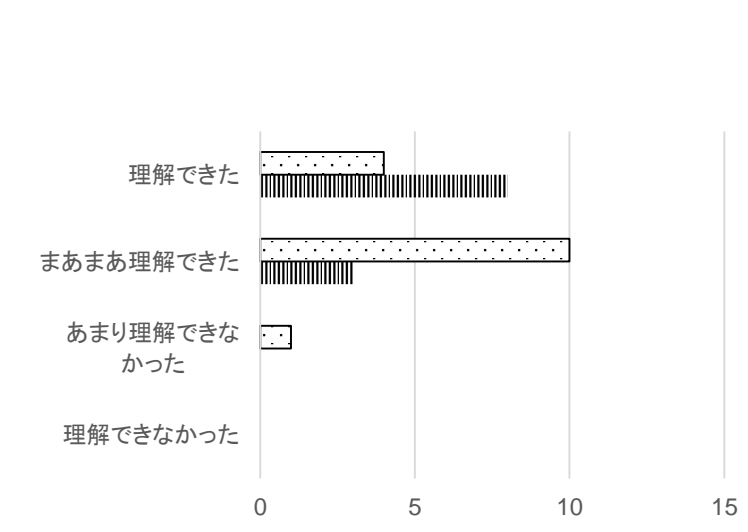


図3. カンファレンスにどのように参加すれば良いか理解できたか

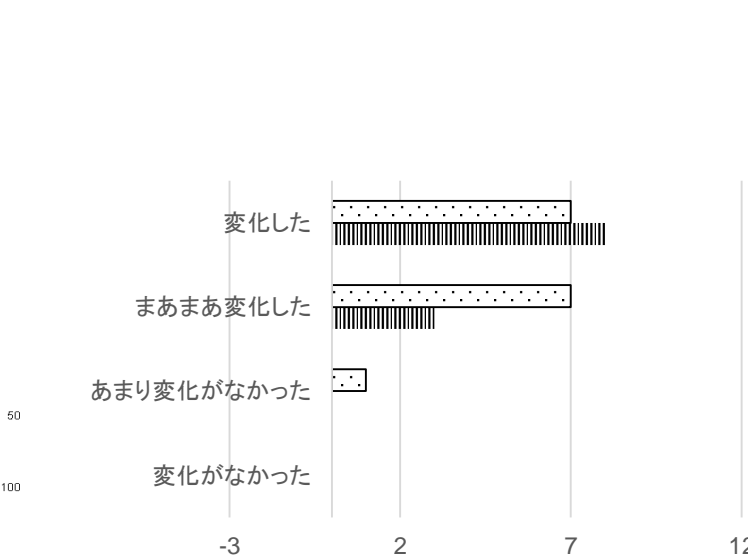


図4. 合同学習を行う前後でカンファレンスのイメージに変化がありましたか